

「集団づくりが重要」

コロナ禍での教育を考える

日本の学校を良くし、GAスクール構想」が
 ていこうと学び合う活
 動をしている日本学校
 改善学会（会長 露口
 健司・愛媛大学大学院
 教授）は1月22、23の
 両日、第4回大会をオ
 ンラインで開催した。
 初日は「コロナ時代―

教育現場の声と学校改
 善のできること―と
 題したシンポジウムな
 どがあり、臨床心理士
 の資格を持つ長谷守紘
 ・愛知県西尾市立吉良
 中学校教諭など3人が
 コロナ禍の中で浮かん
 だ学校現場の問題点や
 改善点を話した。
 長谷教諭は、中学校
 の現場では、学習指導
 や生徒指導など教育活
 動全体で大きな変
 化があったとい
 う。

まず授業の様子
 が変わった。写
 真。規律の一つだ
 った授業中の「大
 きな声で発言」は、
 「距離を取り1人
 つつ最小限の声で
 話す」となった。
 またICTの活用
 広がり、「GI

GAスクール構想」が
 徐々に現実のものにな
 ってきたと実感した。
 例えば、国語の授業で
 は特別講師によるオン
 ライン授業や携帯端末
 アプリによる双方向の
 学習を行えるようにな
 った。

生徒の様子にも変化
 があった。感染症がも
 たらすストレスによる
 緊張と疲労が見られた
 り、一斉休業などで友
 達に会えず、孤独感を
 抱く生徒がいたりし
 た。そこで、長谷教諭
 は、担当する学級で10
 秒呼吸法、肩ゆるめな
 どのリラククス方法の
 指導を行った。
 特別活動について

①新しい学習規律

before	with
元気な声で挨拶	気持ちのこもった礼
大きな声で発言	距離取り、1人ずつ聞こえる最小限の声

これまでの当たり前の問い直し

学習規律の成立には、教員の共通理解と継続的な指導が必要不可欠

も、感染防止の観点で
 変化した。生徒会が中
 心になり、交通委員会
 や給食委員会が、放課
 後の廊下や下校時の自
 転車置き場での密な状
 態を防ぐ呼び掛けをし
 た他、無言で配膳し食
 事をするといった注意
 を促した。

長谷教諭は、それぞ
 れの場面で起きた変化
 について、今後教師に
 求められる力を挙げ
 た。授業で集団づくり
 や社会性の育成を促す
 「教師の授業力」。ト
 ラブルに対応する資質
 だけでなく、生徒をサ
 ポートする「教師の支
 援力」。特別活動では、
 教師が「人とつながり、
 集団を形成する力」が
 必要だと強調した。

コロナ禍の中の教育
 活動について、「自主的
 ・実践的な活動を通し
 て生徒や集団は育つ。
 何が正解か分からない
 からこそ、集団づくり
 や社会性の育成を行う
 必要がある」と語った。
 この日のシンポジウ
 ムでは、他にも大野裕
 己・滋賀大学大学院教
 授、飯島有哉・日本学
 術振興会特別研究員
 が、学校経営や学校改
 善の効果などについ
 て、分析を話した。



①新しい学習規律

before	with
元気な声で挨拶	気持ちのこもった礼
大きな声で発言	距離取り、1人ずつ 聞こえる最小限の声

これまでの当たり
前の問い直し

学習規律の成立に
は、職員の共通理解
と継続的な指導が必
要不可欠

日本教育新聞令和3年3月22日付け 8面

「学校改善学会がオンライン大会 「集団づくりが重要」 コロナ禍で教育を考える」
(令和3年3月25日付け、日本学校改善学会HPでの公開許可済み)